

大阪 需給逼迫感を欠き依然として小康状態

(大阪) 大阪地区の鉄スクラップ市況は小康状態。荷動き次第で価格対応の可能性が残ったままだが、輸出商談の停滞や東京製鉄も様子見姿勢を続けていることで、動意材料を欠きつつあるようだ。同地区電炉のH2実勢値は5万500~5万1000円、新断バラ同5万2000円~5万2500円、鋼グライ粉バラ同4万4500~4万6000円見当で推移している。

13~14日に電炉値上げが一巡した後、表立っての値動きは見られないが、今月後半からの2度の祝日操業によって、在庫水準も一時期に比べて消費が進んでいる。湾岸筋による電炉以上の価格を提示しての引き合いも残ることが、電炉入荷に変化を及ぼしにくいものとしている。また、来月の地区生産量は季節的にも9月比での増加が見込めやすいなか、ヤード入荷にも

引き続き慌ただしさが点で、月末にかけての荷動きにも不透明感が漂っており、「湾岸の調達が続く限り、メーカー入荷が劇的に上向くことは考えにくい。在庫回復に向けて再び引き合いを強める動きも出てくるのでは」(ヤード業者筋)との声が聞かれる。

しかし、電炉筋の在庫事情こそ異なるにせよ、中には余力を抱えたところもあるほか、今月は消費量の少なさも手伝って、逼迫感を欠いた展開となっている。アジア向け新規輸出商談もH2を中心に引き合いが乏しく、東京製鉄の買値を突き上げる程の成約には至っていないことで、「海外や国内の方向性がはっきりしづらいだけに、積極的に調達するような展開でもなく、膠着が続いていくのでは」(商社)と見る向きが多い。

ワンライブ、たつの市にヤードを開設 リサイクル事業に注力

(兵庫) 金属リサイクルやアプリの開発などを手掛けるワンライブ(本社=兵庫県尼崎市、百井一貴社長)は9月5日、西川健商店(本社=兵庫県たつの市、西川功一社長)の沢田工場内に「たつのヤード」を開設した。今後はレアメタルやレアアース、スラッジなどのリサイクル事業に注力していく考えだ。

同社は以前から西川健商店の本社内、作業していたが、扱い数量が増加してきていた。このため、西川社長に相談したところ、使用頻度の少ない沢田工場の敷地の提供を打診されたことから、同工場に新ヤードを開設した。

同ヤードの所在地は兵庫県たつの市神岡町沢田1092番1で敷地面積は1,070㎡。設備にはアリゲータシャー、小型破砕機、トラックスケールなどを完備した。開設についてメタルDX事業部部長の土肥容高氏は「これまで西川健商店様の協力のおかげでリサイクル事業を進めてきた。しかし、大手企業との取引が増えたこと

で扱い数量も増え、自社ヤードを持っていないことは、信頼性に欠けると思い開設を決めた」と話す。

同ヤードは、西川健商店の沢田工場としても運営を続けていく方針で、西川社長は「以前からワンライブ様が扱うレアメタルなどの加工処理を当社もお手伝いしていた。知らないスクラップのリサイクルに携われることは、人材育成につながれると思いい、ヤードの開設を了承した。両社の強みを事業にいかしていきたい」と語っている。今後について土肥容高部長は「同じ場所を共同で使う『シェアヤード』によって、リサイクルの技術が向上し、業界全体の発展に寄与できるはずだ。横のつながりを大切にして、相互扶助の関係築いていきたい」との方針を示している。



開設した「たつのヤード」

ウソは必ずバレルと思え!

(1994年制定ナベショー理念七カ条 第六条)



日々のつぶやき Vol.89 2023.9.25

■隠すからバレル-過去のごまかしが世間を狭くする
▶先日、女子プロゴルフで優勝した20歳の選手の話になった際、ほとんどの人たちは称賛していたが、3分の1の人たちはその選手のアマチュア時代のアンフェアなプレイ(俗に言う「卵を産む」行為)を批判していた。
▶過日の海外出張で多くの人たちと会食した際、出身地などのほか、どういう人たちとどういう接点を持っているかなど、様々な話が出て非常に活気ある機会となった。その原因を考えた時、「現在・過去ともにウソの行動や付き合いがなかったから活性化した」と気付いた。過去にごまかしがあると世間が狭くなる。ゆえに「最大の防衛はオープンであること」という言葉を皆様へ贈ります。

N.S GROUP